

## 農地の賃借料情報

2019年1月から12月までに締結(公告)された賃貸借(借賃が有料のもの)における賃借料水準(10a当たり)は、以下のとおりです。

2020年2月25日 豊岡市農業委員会

### ■田(水稻)

締結(公告)された地域名	平均額(円)	最高額(円)	最低額(円)	抽出筆数 (借賃が有料のもの)	使用貸借筆数 (借賃が無料のもの)
豊岡地域(旧豊岡市)	9,700	17,200	6,000	109	577
城崎地域(旧城崎町)	—	—	—	—	—
竹野地域(旧竹野町)	7,200	7,200	7,200	14	35
日高地域(旧日高町)	8,300	12,300	3,000	177	299
出石地域(旧出石町)	7,700	12,300	3,000	389	271
但東地域(旧但東町)	6,200	10,000	3,000	20	57
(参考)豊岡市全域平均	8,100			709	1,239

#### 【この表の見方】

- 抽出筆数は、賃借権が設定されたもののうち、標準的な賃借料を算出するため、全体の平均値±70%を超えるものを除いています。
- 借賃を現物で定めている場合は、60kg当たり14,400円で換算しています。
- 平均額は、算出結果を四捨五入し、100円単位としています。
- 参考のために使用貸借(借賃が無料のもの)の筆数もお知らせします。
- 畑については事例が少ないため算出していません。
- この金額は、あくまで情報提供ですので、これを目安に圃場条件等を考慮し、当事者間で十分協議して決めてください。

## 2019年度 遊休農地パトロール結果

[2019年12月末現在]

(単位：㎡)

	2018年度遊休農地	増加	減少	2019年度遊休農地
豊岡	58,836	92,835	1,899	149,772
城崎	40,728	0	56	40,672
竹野	187,628	12,480	10,386	189,722
日高	255,762	14,941	29,712	240,991
出石	168,425	37,868	29,782	176,511
但東	119,991	13,329	2,789	130,531
合計	831,370	171,453	74,624	928,199

※「増加」は不耕作耕地や1年以上管理されていない農地で、「減少」は耕作再開、自己保全などで解消したものと非農地判断を実施したもの  
(非農地判断した農地は、25,136㎡)

農業委員会では、重要業務の一つとして農地の利用調整、遊休農地の発生防止・解消活動を行っています。耕作できなくなった農地があれば、お早めに地元の農業委員・農地利用最適化推進委員にご相談ください。

## 農機のことならJAへ



たじま農業協同組合  
農機センター

養父市八鹿町朝倉1141  
TEL079-662-3817



たじまに生きる  
たじまを活かす

JAたじま

## 新しい発想で農業の夢を叶える

新田 拓樹さん(中郷)



新田さん

新田さんは、繁殖和牛経営農家で現在、親牛50頭、子牛30頭を飼育しています。

拓樹さんが和牛飼育を始めようとしたきっかけは、父の義孝さんが、平成2年、7頭から始めら

れており、それに加え、以前から家族みんなで仕事ができたらいいなと思っていたことと、日本がTPP（環太平洋パートナーシップ）協定に参加したことで、生産者は輸入品との競争激化に直面し、農業を取り巻く情勢が厳しくなってきましたが、それが和牛農家にとっては逆にチャンスだと感じたためでした。

始めた当初、苦労したのは、資金繰りでした。年中休みが無いのは覚悟していたけれど、思った以上に大変だったとのこと。

仲間やグループ活動により得られる情報の大切さも感じました。

今後、自分の経営でこだわっていききたいことは、まず省力化と効率化、IT等を経営に積極的に取り入れて、牛飼いの技術を磨いていきたいと話されていました。

ここ数年、子牛の相場価格は、高値で推移しています。3月には子牛7頭を販売する予定ですので、高値で売れるといいですね。

農業経営での夢は、ヨーロッパで行われているような小規模で家族経営することだそうです。牛飼いは休日はないけれど幸せはいっぱいあると思いますので夢にむかって頑張ってください。

(農業委員 田中 直喜)



牛舎の様子

## 次世代へつなぐバトン

(株)坪口農事未来研究所

代表取締役 平峰 英子さん(三宅)

昭和50年頃、父が業として農業を始め、休みなく一生懸命に働く両親を見て、「農業って大変だ」、「結婚するなら会社員がいい」と子供ながらに思っていました。その後、義理の兄が後を継いでくれたものの、思わぬ病気で早くに亡くなってしまい、急遽、平峰さんが団体職員を辞め引き継ぐ事になったのが6年前の事になるそうです。

継承した際には、周囲の心無い言葉に悩むこともありましたが、それ以上に色々な方々に助けられ、助言をいただき、今日に至ることができました。

この数年で人という宝物をたくさん頂くことができ、とても感謝しています。

豊岡市の取り組みである「コウノトリ野生復帰事業」を誇りに、地域の農地を守り、次世代へしっかりとバトンを繋ぐために平成31年4月に(株)坪口農事未来研究所として法人化し、儲かる農業、強い農業経営を試行錯誤しているところです。

父から義理の兄に繋がった農業、今思えば大変な反面、とても楽しんでいたように思います。私たちも楽しみながら次世代へ繋ぐ農業、未来の地域農業を考えて行く必要があると考えておられるとのこと。

これからも頑張っていって下さい。

(農業委員 村田 憲夫)



トラクターで耕うん中の平峰さん